

オペラ発祥の国イタリア屈指の名門
4年ぶり7度目の来日

ボローニャ歌劇場

トスカ

プッチーニ

【全3幕】

演奏：ボローニャ歌劇場管弦楽団／合唱団

演出：ジョヴァンニ・スカンデッラ

原語上演・日本語字幕付き



トスカ
マリア・ホセ・シーリ



カヴァラドッシ
マッテオ・デソーレ



スカルピア
マッシモ・カヴァレッティ



指揮：オクサーナ・リーニフ
(ボローニャ歌劇場音楽監督)

2023年

11月7日(火) 18:30開演(17:45開場)

高崎芸術劇場 大劇場

●料金(全席指定・税込)

SS席24,000円 S席19,000円 A席15,000円 B席11,000円
C席7,000円(U-25:5,000円) 車椅子席・介助席15,000円

※お一人様5枚までです。

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※U-25料金は、公演当日25歳以下の方が対象です。当日、年齢のわかる身分証明書をご持参ください。

※車椅子席、介助席のご購入は高崎芸術劇場チケットセンター(TEL:027-321-3900)まで電話でお申し込みください。

〔主催〕コンサート・ドアーズ 〔共催〕高崎芸術劇場(公益財団法人 高崎財団)

〔後援〕イタリア大使館



●チケット発売日

《Web先行》6月21日(水)10:00～ 高崎芸術劇場メンバーズ限定(登録無料)

《電話》6月22日(木)10:00～ 高崎芸術劇場チケットセンター

TEL:027-321-3900(10:00～19:00)

《窓口》6月23日(金)10:00～ 高崎芸術劇場2Fチケットカウンター(10:00～18:00)

ほか高崎市内9か所の高崎市施設プレイガイド

●その他チケット取り扱い

コンサート・ドアーズ 03-3544-4577(平日10:00～18:00) <https://concertdoors.com>

チケットぴあ <https://t.pia.jp/> イープラス <https://eplus.jp/>

楽天チケット <http://r-t.jp/>

●お問合せ:コンサート・ドアーズ(平日10:00～18:00)

※やむを得ない事情により演奏者が変更になる場合がございます。 ※チケット購入後のキャンセル・変更はできません。

ボローニャ歌劇場

プッチーニ

トスカ

第3幕の舞台スケッチ

いま世界でいちばん熱い指揮者と当たり役の
名歌手がそろって、これが《トスカ》の決定版!!

《トスカ》ほど濃いオペラはない。陰謀、拷問、強姦、殺人、処刑、自殺と、あまりに多くの状況が降りかかり、主要な登場人物4人は身動きがとれないまま相次いで命を失う。観客は正味2時間のうちに、いくつものオペラを観たのに匹敵するほど、数々の展開と感情を味わう。

これだけ内容が詰まった世界を、プッチーニは緊張感の高い音楽で埋め、抒情性も絶妙に加味した。そんなオペラを世界最高水準で生き活きと描ける指揮者がオクサーナ・リーニフだ。事実、彼女が2021年に英国ロイヤル・オペラ・ハウスで指揮した《トスカ》は、圧倒的に称賛された。

そんな稀有な才能のもと、とりわけ高崎には最高の歌手が集まる。トスカはこの役が十八番で、欧州中心に高い評価を得るマリア・ホセ・シーリ。警視総監スカルピアは、世界のトップステージで活躍するノーブルで力強いバリトン、マッシモ・カヴァレッティ。《トスカ》の決定版、ここにあり。



第2幕の舞台スケッチ

世界がもっとも注目する女性指揮者が音楽監督に
いまボローニャ歌劇場は最高の旬を迎えている!!

生活も文化も水準の高さがイタリア屈指で、ユネスコの「音楽創造都市」にも認定されている——。ボローニャはそんな町だから、歌劇場に寄せられる期待も大きい。錚々たるキャストを集めて上演されるオペラ公演は、オペラの殿堂と呼ぶにふさわしい水準の高さを誇る。それはこれまで6回におよんだ来日公演でも証明されており、現地では900ほどの客席をめぐってチケット争奪戦が繰り広げられる。

オーケストラの実力も高く、多くのマエストロがイタリアで三指に入ると語る。そしていま、この名門はあらたなステージに入った。2022年からウクライナ出身のオクサーナ・リーニフを新音楽監督に迎えたのである。その前年、女性としてはじめてパイロイト音楽祭の指揮台に立ち、絶賛されたリーニフは目下、世界最注目の指揮者。そんな旬の才能に率いられた最高のタイミングで4年ぶりの来日が叶う。

香原斗志(オペラ評論家)

マリア・ホセ・シーリ(ソプラノ)

ウルグアイのイタリア系の家に生まれ、ドラマティックな声が求められるオペラで、国際的にもっとも重要視されているソプラノのひとり。常連であるミラノ・スカラ座のほか、ウィーン国立歌劇場や英国ロイヤル・オペラ・ハウスなど欧州の主要劇場をホームグラウンドとする。とりわけトスカ役は各地で称賛されている。

マッテオ・デソーレ(テノール)

1989年、サルデーニャ島生まれ。往年のソプラノ、カバイヴァンスカに師事して大きく成長し、2019年にミラノ・スカラ座デビュー。昨年夏は英グランドボーン音楽祭で《愛の妙薬》のネモリーノを歌い、大成功を収めた。リリックな声となめらかな発声、端正でみずみずしいアプローチが高く評価され、清新なカヴァラドッシが期待できる。

マッシモ・カヴァレッティ(バリトン)

伊トスカ州ルッカ出身のバリトン。ノーブルかつ力強い声で、スタイルを崩さずに性格的な表現をこなせる。だからミラノ・スカラ座やメトロポリタン歌劇場、英国ロイヤル・オペラ・ハウス、ザルツブルク音楽祭など、世界中の権威ある歌劇場や音楽祭の常連だ。声が成熟し、悪役スカルピアは歌いどきを迎えている。

オクサーナ・リーニフ(指揮・音楽監督)

ウクライナのリヴィウ州出身。地元の音楽院に続きドレスデン音楽大学で学び、2013/14シーズンからバイエルン州立歌劇場でキリル・ペトレンコのアシスタントを務める。17～20年はグラーツ歌劇場と同フィルの首席指揮者としてオペラと交響曲の双方で腕を磨き、その後は欧米の主要な劇場やオーケストラへの客演が目白押しだ。21年、パイロイト音楽祭で指揮した《さまよえるオランダ人》は大絶賛された。22年1月よりボローニャ歌劇場音楽監督。

(プロフィール紹介: 香原斗志)

PUCCINI
OPERA
TOSCA